

主要ファンドの2020年上半期上昇率ランキング

騰落率 1カ月 6カ月

1	グローバル・プロスペクティブ・ファンド 日興	11.6%	30.4%
2	グローバル・フィンテック株式ファンド 日興	12.7	26.1
3	グローバルAIファンド 三井住友DS	10.4	21.6
4	サイバーセキュリティ株式オープン (為替ヘッジなし) 三菱UFJ国際	7.5	18.8
5	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Aコース(為替ヘッジあり) ゴールドマン	4.3	14.0
6	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド (年2回決算型)(為替ヘッジなし) アセマネOne	8.0	12.1
7	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Cコース毎月 決算型(為替ヘッジあり)予想分配金提示型 アライアンス	1.4	9.8
8	先進国ハイクオリティ成長株式ファンド (為替ヘッジなし) アセマネOne	6.2	9.4
9	三菱UFJ グローバル・ボンド・オープン (毎月決算型) 三菱UFJ国際	2.8	8.5
10	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月 決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型 アライアンス	1.5	7.7

(注) QUICK資産運用研究所調べ。2020年6月末時点。対象は国内公募の追加型株式投資信託(ETF、DC・SMA・ラップ専用を除く)のうち、純資産総額上位100本。騰落率は課税前分配金再投資ベース、6カ月上昇率が高い順にランキング。マザーファンドが同じ場合は騰落率上位のみ採用

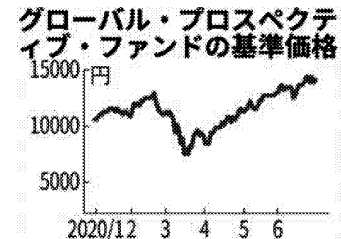
投信番付

主要ファンドの上半期上昇率

テクノロジー関連が上位

コロナショックに揺れた2020年上半期の株式市場では、コロナ禍におけるニューノーマル(新常态)を実現する手段の一つとしてデジタル化の進展が大きな関心を集めた。国内公募の投資信託(純資産総額上位100本)を対象に同期の上昇率ランキングを調べたところ、人工知能(AI)やフィンテックなどのテーマ型を含め、テクノロジー関連株に集中投資するタイプのファンドが上位に顔を並べた。

上昇率1位は「グローバル・プロスペクティブ・ファンド」で30.4%のプラスだった。組み入れ上位は米電気自動車テスラや米決済サービスのスクエアなど。テスラはESG(環境・社会・企業統治)投資の広がりなどを追い風に株価はこの半年間で2.6倍に急騰し、同ファンド



の高リターン実現に寄与した。リターン上位のファンドは、テクノロジー関連かつ先進国、とりわけ米国への投資割合が多い点が特徴だった。世界の技術革新をリードする米優良企業の株高が好成績につながった。(QUICK資産運用研究所 荒木朋)

2020年7月16日付日本経済新聞夕刊5面 ©日本経済新聞社
許諾番号30077046 無断複製転載を禁じます。